



女編下

種彦作
國貞畫

~13
1178
56

板
幸
廣



志乃
繩
物
語

十段目

~13
1178
55



志 物 總 語



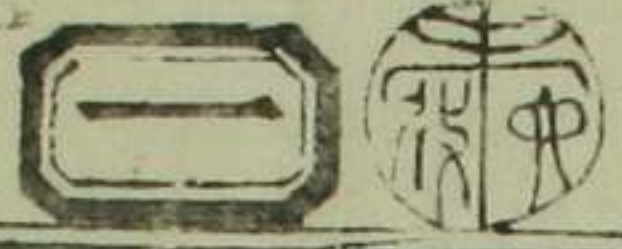
志物總語

~ 13
1178
55

1178
55



名徳物語
廿八篇
之集



往昔神武天皇の御宇葛城山の土蜘蛛ハ自己糸りと巢を營身
以有やぐ葛網まゝ搦捕まゝとを物と損ふ糸とを用ゐる小擒り
網を脱ぎ平自業自得といふやぐ而耳吾白縫も筆小信蜘蛛の巢とい
なむやぐ小手の速ぶ丈四方八面へ眼と配と佳種とつげ次第小引懸あま
時と擇て脚色とあすハ件の蟾子の所業小作されど運筆ハ渠が身の
軽きハ似ぬのみろくで廣げ一多端結寄る満尾の地ハ甚難苦く今
か胸の安かぬハ羅をるりのが自己罟小からに等しと嘆息するハ
蟾蛸の術ハ糸と文章と

安政七年庚申新刊

柳下亭のあらど
種員ありり



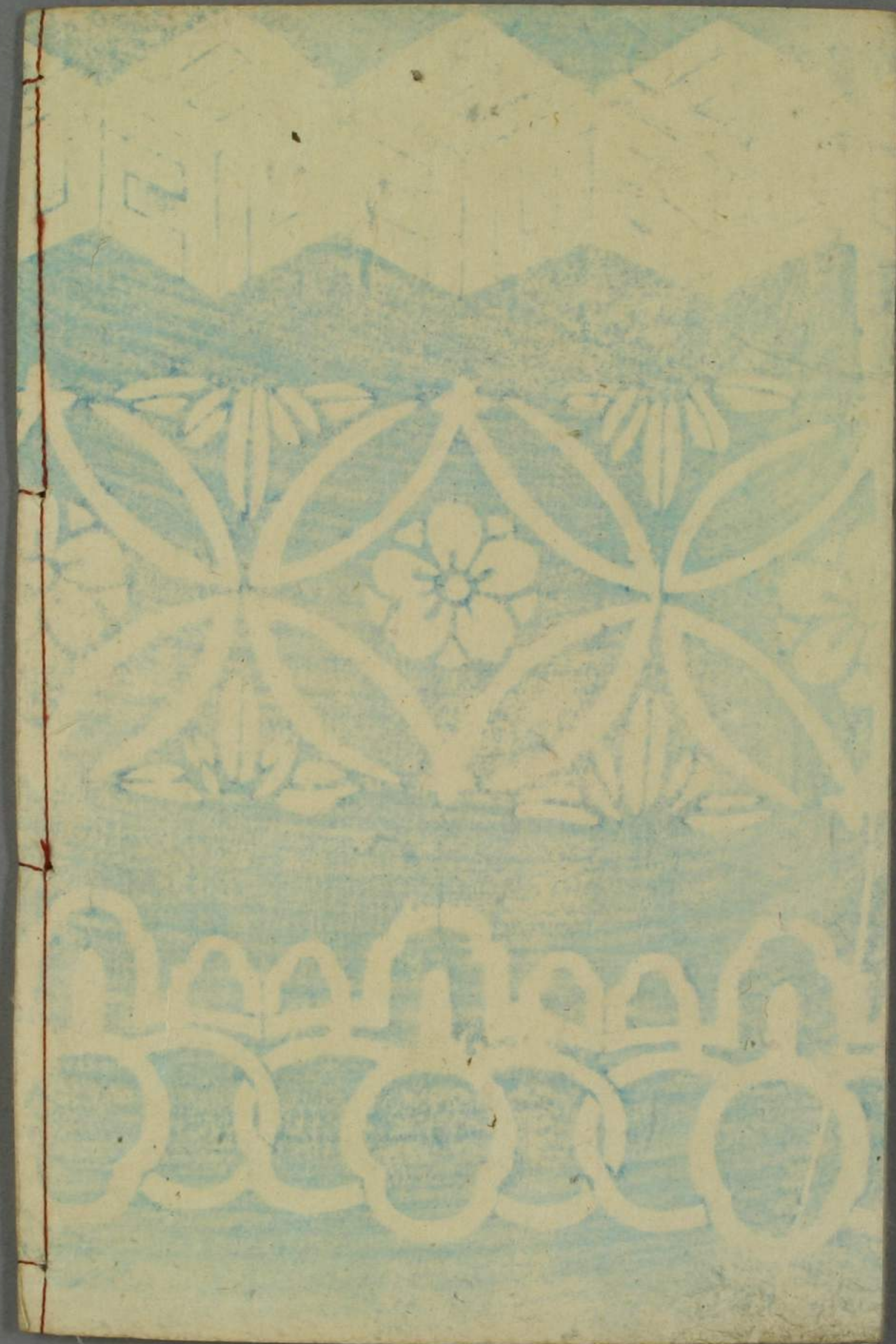


三十三のちやし
冬加松
後八即武門
真意の戸



口曲るの例







廿八編下

種彦作
國貞畫

廣
幸
板

~ 13
1178
56





○よそのこのまゝあ
あんなにいとちまの
ふらふらとあひと
ふらふらとあひと

あんなにいとちまの
ふらふらとあひと
ふらふらとあひと
あんなにいとちまの
ふらふらとあひと
ふらふらとあひと



このことあらぬひが
とれらちうあまの
せよはてのこころ
うらみのまゝのか
さくはつてへさ
けりてあはれと
そのまゝ人あも
ぬい武威
おさあし

合鏡氣味を
さひとさひ
あじや
あじや

あんなにいとちまの
ふらふらとあひと
ふらふらとあひと
あんなにいとちまの
ふらふらとあひと
ふらふらとあひと

